東西夜話

上

剃
1141
1

5
門 1141
巻 1-3

宗教大学図書

東西夜話 乾

え旅のこと〻辛巳のゝ夏ひろ〻山〻
国〻乃人々のゝ東西坊か迷路のゝ運と
なりたゝんとかゝれあり其頃い肥後豊後の
人あり東ハ之河屋清の人あり西ハ筑紫
の人〻し賀府の伊集ハ我行さきゝ国の人
るゝ〻ゝ彼いとゝ〻ゝ都をおゝ乱れ彼
ゝ〻ゝ乱ゝ世のゝ後かくおゝ送
れゝる〻来情ゝ人ものゝておゝ都

乃人々をけしかけしめて
うらさびしきものもあり月のはかなくの日ゝ
ゝ稚子時のさらゝ乃ゝ
法師ゝ遊ひ乃ゝ
ゝ法師ゝ

本曽塚

詣先師廟

市ゝ橋ゝ東西ゝ橋ゝ東西ゝの

名ゝ
ゝ
ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

小倉にて待てとゝ[illegible]
事かやめん

筑紫
朝妻

[illegible]
[illegible]月[illegible]
[illegible]

敦賀

敦[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

山中

[illegible]温泉と[illegible]湯とい[illegible]湯と[illegible]
[illegible]長の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]菖蒲の葉をめてるまの[illegible]

[illegible]

[illegible]

夜話

此地の十景のうち芝浦に[illegible]の漁火といふ題

[illegible]

かすみ[illegible]

[illegible]

八[illegible]桃妖[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

火のもえ[illegible]

大聖寺　三枝

聖天宮

[illegible]の中に[illegible]

[illegible]の中に[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

此あるふ[illegible]

[illegible]

人の[illegible]

[illegible]

宿の[illegible]

[illegible]

時[illegible]

汐越松

関雪の[illegible]

[illegible]

[illegible]人江上の清風と山間の明月とを[illegible]
[illegible]
[illegible]

里楊亭

旅人[illegible]

何由亭

市中の日[illegible]

[illegible]金昌寺と[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

堤氏の[illegible]八十年あり七とせ
[illegible]頭の[illegible]
の嶽[illegible]
[illegible]
の一[illegible]
[illegible]

夜話

今月況屋の編みて先師柳園行脚の源一
初き所といつるハ初き所の大切なる行脚と
いつるなり法師の白きをとりたるかゝ実に殺かと
いつる山桜の里にもとめ侍りとて見て國
次の夜あるゝの月見侍の況屋とゝいふ
法師の日風雅の況屋ハ況屋ハ主の稚ゝ
人の況屋なりきゝ況屋あるもよきて
柳園の句と況屋の日見都況屋かきもの
ハきゝなれきゝふ見るきゝ書るをいうんを
人をきゝ見るゝ人の句をきゝるつゝ

当別
川中ゝ切をきゝの稚也芸の日

名称

高つ遠きゝ江乃日乳　皇為
稲高ゝ山ゝ稲ゝ山ゝ接の
峰ゝ高ゝ高ゝ稚きの匂ひ
多賀ゝ松ゝ高ゝ梅の毒　関雪
異郷の宵年一つの新酒
ゝの影ゝ明ゝ晩ゝ　長水

あるを言ふ事なれば
世の中のせしかの月の全くの
虎の田
隠れ刺もとるの諸説を論ず
れるの言ふ所あるいは言葉
方錐
月もとり出て上るの説を
水言を綴りて行ふ所
里場
ふ雅もの出るの説
時雨の井戸の出る
何田
蛍火を殺さり
なり

[illegible]
此川は北条貞一の新田を
さるわもあるむ川上を
ふ流るる栗川下は海の
今は水枯のその時ふ
如は東南の雪時に
行雪見るの時に
ちさふ夜寄のもし
しこの河京ひとつ
ひ地をもく

[illegible]

金沢

烏水亭

高瀬川加茂の夏月

此地の夏涼の名あるゝ所よ

七川のみなとゝ稲かゝゝ戸ゝ

而青亭

公主ゝ粉の桂川

無亭

月姫よりよ春夏秋冬月園

小春亭

此亭ハもとゝ吉高の二条の宮殿中

しらゝ稲の名所一句ゝ団の面影を

山中の夏乃春も此あるゝ時ゝゝ

乃あるゝの名あるといふ

ゝゝ名ゝ物ゝ名の自然ゝ

ゝゝの名ゝ水ゝの水いと深ゝ物語ゝ稲

夏ゝあるゝゝ伊ゝ

為井乃名ゝ宮殿ゝ下ゝの言

巳東亭

村雨の宿やあらそふ

住之亭

おもひよる海ゆ[illegible]

[illegible]

万子亭

世をうき世界の位賛あり孫ゝ忘れ[illegible]

[illegible]

[illegible]又かけあの[illegible]倒の泊

人いひこ世のさみだれ所の月

八紫號

紫ゝ[illegible]

関ゝ亭

紫のゆうさつをよ初霜

従吉亭

夕時の[illegible]

相之亭

水鶏ゝ人やゝ[illegible]

世亭の後[illegible]の川音[illegible]

月[illegible]市朝[illegible]

何[illegible]琴[illegible]の[illegible]

ゆとりやのむ雲居の秋の月やあらんと奥しぬんれ抱のゆ[illegible]おそしみそのあるとき抱

望月方そのうちけい百合の月ぞ

秋の坊無い秋

ちうつぼにちわ[illegible]勝を扇れ

六秋ゝ坊

あゝ秋の坊やあ[illegible]の秋を世は始みを秋の坊ゆるゆ抱いとゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]

みくりかんとを八世孫あるくんの志を
うつろ[illegible]て法然さい又世の風流かし
世をさとるすみもんこれ法師なるおさい
さ自身事を稽古をいいはあるものつ
仏法をよくつのつ[illegible]たのてくのうもと
とはあもむかことをむ世俗のこさ名より
ても仏諸のくるさ源をたちをかんや

[illegible]

[illegible]

今室[illegible]庵
[illegible]一乗[illegible]
風吟亭

肩元のいとあるるを圓うあ
ある人[illegible]て曰此分不接移[illegible]仏[illegible]命の
を人[illegible]八肩元のいとなうんこれをそ[illegible]
[illegible]の[illegible]稽法師曰源[illegible]わ稽む[illegible]
風雅[illegible]何のをあるるや[illegible]仏[illegible]の
[illegible]稽[illegible]あさ[illegible]天[illegible]
かりほの[illegible]法神[illegible]稽良臣[illegible]

の名し流れつれたる方を山野ふるあらたなる
方をさにおよつれたるもんの海きかくるあらんと
世の富貴をとらふやそとくんのおよさ
くんるはるれ海さかあるハせ色くはえかり
の風物人とくいつ色きやれふもくさもく
うくも

岩山亭

かけてやあるつ色のあ
林信亭　琴アリ
その形の浦やはるはと二枚
琴也

或日磨き流うをを拾てもふるの家の紋
乃ようなるの紋をもてゆのくるふくあ
あるふるふとおくくあをゆくきのある
りの衛門をくるいまて金屏のそうを
くくをてくるかくれあるくあ法郎くを
庭の形さるふあるくくくくくる梶下のいるひさ
くくくる梶中のきれくさるふや鞍の言ハな
あくくくる梶の形くさ笛のあくを迎ふと
れの宮くるくふかの海然くやくのくるの海
してめる潟ようくもるくきをるるあるる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

東話

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

しなつのの[illegible]
[illegible]
かく[illegible]人の[illegible]俳句長短起所のさうしゆえ
おのづから[illegible]

俳方論

世の人俳諧を[illegible]
[illegible]
[illegible]
俳方[illegible]
[illegible]

とい[illegible]人[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
○[illegible]

直い人

[illegible]

直い句

[illegible]

天和

[illegible]

時雨

門雪の雪し節ふるふる雨

時雨

五月雨の頃の景色〜〜し詠か

此の歌の時雨にもあれば

詠おるの時雨もあるさて一雨と乃雨花と迄

今の西郭を詠ると云ふ事あれば外方

おなじ二句の曲あり

軍書西郭

梅の花の外俗の歌〜〜

西郭の西郭

入乃し姫の詠ると云ふ

西郭

市中の西郭

むし〜〜附といふ事もあるし

此の歌を一書その日三日の夜〜〜

夕れ方乃合の西郭

名録

かさを付けしはや者の四 夕空

雨の方のあるの稲の穂

移り行く姫の詠ふ 小枝

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

万子

[illegible]

牧童

奥赤

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]　　巳東

[illegible]　　秋坡

[illegible]　　八紫

[illegible]　　長緒

[illegible]

[illegible]　　巴堂

[illegible]　　南皇

[illegible]　　北山

[illegible]　　四雅

[illegible]　　野黨

[illegible]

文知

[illegible]

三通

[illegible]

藩月

[illegible]

契丈

[illegible]

宣仲

[illegible]

一汀

[illegible]

藉糸

[illegible]

志堂

[illegible]

林隆

[illegible]の[illegible]の河添り　百七
[illegible]の[illegible]の[illegible]　社書
[illegible]の月の[illegible]清し水の[illegible]　元稿
山[illegible]輕[illegible]の[illegible]の[illegible]の言　頼元
[illegible]　左右
[illegible]　和風
[illegible]　輕舟
[illegible]　意程
[illegible]　玉枝
[illegible]　和友

[illegible]　新故
一風[illegible]　八十
やうはまて[illegible]　字路

石勧

宿観音ち

野の[illegible]の月[illegible]
此地の[illegible]
一[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

一人

涼む窓あり 泊船亭

老星堂のちかうに住なるいとあるさまか
風雅の海さまを学ぶ姿なり
きしきふかあて立て此の岳立ちの
源く水流のあるふかあ西の相の楽
西ふるまも白と明るくたる風
やうきとうる雅し姿きかくこの元の
うるあるもるる

相の学ん[illegible]の秋
世あるる瘧ゆるつ新中も風雅の雅
きんるひるるもあ立西行の秋脚とるひ
ゆ雅しもつ風しる
炉ちるよ瘧ゆ一品あるれ
新言ちる無秋
六月[illegible]
弐人の日学ひさことも[illegible]
日ひさことあるてあ[illegible]
ゆるとゆ時いるこるみるいと
涼かんゆるしい和語

詣埴生八幡

世を中にふるもさらぬみなれば
なほしなほ見明の名をとどめ
ぬ地や絵をかき
ものかはあいにものかはあ
はせ一紙の風
はるかなるかなたの
いつれかはいつれかはとは
かりの名をつ
ぬ
見ぬかくいふ
古仏
ふるはのもりの神の心

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

の点ある事をもちゐられ候ハ新敷事ゆゑ候ハ
ゝ文書もあるまゝ法のゝ[illegible]なるの
もちゐ候ハ[illegible]一巻の[illegible]といふ[illegible]
なるのゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

柳の葉や戸をたたくの音のおもし　宇白

なるほどの山田の水をせきあげて
うるおふかはのこのむこ一面の稲
見くるしの姿に深くこがれ　定動

露はらはらと風をしおりて枯のに
ひらつるやうに紅葉のつやも消わ　笑山

風の吹よりせてもの凄るやうに
あもとに稿ふいことふいくしく　芹雄

新しき稿をかけて帰り蛙と盃をふ
なのの舞ふ稿の姿の物ふ　徒古

さしぬの紅葉ひらひらとふ
川の筋ふたいくよりの小魚堰　方登

タくるやうに芋の葉の根をおきの凡
苗代やたなの毎の俳名つ　咫尺

肩をたてる形の葉を取くるされ
あるやうに紅葉の見えの　為也

山伏の笠やうの形をこの中よりの
蓮の葉ふ一物をもの寒　其夕

柳陰をくに柳の葉川
枝世葉ふるいふるもの所のあと　蛍曙

兼道

正木

源頼朝の母たる人の墓なれ　秋孤
はるかなる所の稲の穂　邦里
くさくさに結ぶ露の味　可水
新の香ふ四とをふるまれ初夏　石紫
ちりそめて本堂の前　田家
梅のこの門今もあるや暗蔵孔　笑吉
初鰹とりあるや梅雨寒の　芦泉

如意寺

此寺てらハ天平の比行基創とや観世音の

乙姫ふるそいはるそうもまた此里の名也安兵
とのいふ所ハあさ此多の一名なり
居さるまつ里ハ伊豆しるいふ下
世のかそいハこ安兵の杜月
猿通ふ士の乙人新を此ちふ所ら
こうるあるふ柳ちけ此今ハ庵紫
乃郷あるて平紀の名所の
の方ふ出りむくれ長一里ハうもあるつ

蛍市ハ
あ川きりるつ　つしひょうら宮拾ふ
世月湖ふ宮ふ　みぬ山の

見まいと浄瑠璃を稽古
さゆとい見の言葉の中に月夜
巴宇乃姫乃乃うち出むふ兼て
ちきり約あるを稽古乃
をるに此言葉ふ人乃きと皆乃
乃ゝう姫用さ稽古を
皆戸外戸の時やゝ入て新の言
此巴宇の姫八世つきまゝ稽古する稽
きゝて人のこゝろ乃ゝ乃ゝ
乃いて見物あるゝ人とはゝ新みれの
人をいとやさしくその姫乃ゝ稽古乃ゝ
をる人勝人ともゝ稽古れ
柳 土六
此あるゝ初ゝ乃ゝ乃ゝ尾ゝ言ゝ七ゝ八袴ゝ
言葉ゝ言ゝ言ゝ郭ゝ出ゝ稽ゝ今宵
ゝ言ゝ郭ゝ乃ゝ姫ゝ乃ゝ姫ゝ言ゝ八ゝ
ゝ言ゝ言ゝ言ゝ稽ゝ
乃ゝ乃ゝ言ゝ言ゝ言ゝ言ゝ言ゝ乃ゝ時

小枝の通

世良田の長吉師の門人に風雅の
世をこと葉にもとゝのへ風雅の
風雅の根性をさとしめ時雨の松風の
風雅の言葉をもて世をすゝめの如く響
うゝ如くいかにもとゝのへ世を根性の
根をもてこゝろ記さしもつてあ言葉の
響あしくもとゝのへ世をとゝのへ世
乃ち世をとゝのへ思のあるを俗とも
世をとゝのへいひ世を風雅のまゝ一ちゝと
世を俗を世を坊主を雲水を世をもの

交をもて今の庵を分て今の庵こゝふ
色八文かの寄こゝはもや世を
世をの如の山をやゝの世を田家
時に紙言をこゝ
旬在のこゝ
小枝文

東京坊

夜話
枕をこゝ世をとゝのへ
分仕事の庵を伽藍を伽藍の
今寄世の海あるをもて枕のこゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

合録

駒ゑのはあつまや鉦の声　丈孝

ふるあれはけしきあて蓮ゑ咲ゑ

ゆうゑゑ吹ゑ風の薫　巴兮

虚空行よこの夕べと吹ゑ

咲ゑやゑゑゑ白斗の花　柳士

ゑゑゑゑ白斗の花

蛙の蓮や移ゑ蛙の花

清ゑよ清ゑ清ゑ

秋の月や地蔵菩薩

ゑ

ゑ

ゑ

錦を織むる牛の服装　素好
紅葉ら山のもみぢ葉の末　一二両

井波

源泉寺

高の丸山柏し源へ入まし

此源寺乃書ものを拾の書ものを
見風山の麓をいとつ成かる山里の
明者をふる風雅の多りきを
のさ物しひらひつきを孤陽山のさらを

そもそもかの撰集のぬきをもつ物ものさ
して歌集の無しを又ものをけちく法師ハ
まもりもこの物ものをいとん
やうに書きるれさ物をきるの風物を
ているの結をの

ふてさしおるハ歌のみおれ

路健

六月ものの清のり歌のを

胡仲

夏の東の麓を脇の人家

浄蓮寺

蓮の葉坊ゝ

廿五日

東京坊ゝ七十年の母ありゝ去る頃の夜
ゝ外月の未だ出ずゝ雲もなかりしの
一回ゝ清涼ゝ清涼ゝ清涼ゝ清涼ゝ

此地にて山あるうるかの[illegible]花の名所
[illegible]の[illegible]人の[illegible]
[illegible]

[illegible]

不舊亭

此亭[illegible]
二階[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]起
[illegible]

山之麓あるまゝにせゝ[illegible]て御茶屋
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]

知足院

此里に家々の織機のいとかすかなる音
乃ち人々いとなつかしく織姫の家
ゆゆしうも七夕の秋と結ぶ人ぞ知る
く織事しらぬ人のなかりけるに
秋ごとの機おる侍よりはじめ

夢語

七月朔日薩摩立花の殿のぶ乃二字を呼て曰
その立花殿と秋の光
と立花殿も立つ殿のまとしの時
光あり秋殿のぶ乃殿の
ゆゆしく秋殿の殿
見知りて地の知恵と
殿をい殿授し七夜
ゆゆしく事なり

立花殿の侍
村雨の鶴の品立花殿
ゆる(はせ)とをかりし人々鶴の品立
村雨殿と夜殿とのいとかすかなる村雨といつる

みなと添うさ袖小村内小石姫みゆし
きさらぎ三月三日の名所又菜摘の村
所と詠ひ袖小秋の名月もあるまし
芝生を一文字一面のさかさまに志ゐ
この子もさきまさきまるや

名録

紙屋河内一所い袖小山橋 不舊
茶屋小一軒の男あるも一歩新
さ袖あるも松も見の所も 十沿
部久郎宮ひ久さの厳
高塚袖小松の間さる袖小 如室

如清水多るのれく巣の新
馬よせるの先の村小所小 山之
いのくいくいくいるあるも雄小
雑人を有るあるあるれ 奇鳥
橋の清を四三宝の寄れ
部自部こ袖小水の橋小 和笑
月清よ尾張るくの屋あるも
知如も藤さ山もの道 知豆
山月やるるこ袖小村家
市人の孫者の名とも山路 一川
宮の内もてる清水の西小

抽人の蛙を吸ふ音聞れ　宗信

[illegible]

名月や坊主に新柳　櫻雀

[illegible]

井波

六月晦

[illegible]

立秋

一ツ仲の[illegible]の秋

荻人亭

[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

稲葉山の物語を聞かく
古里を出りしゆりまうし
雪語

浪化曰三月の形容也の句を聞かく
詩ふ[illegible]廉洞[illegible]
容を[illegible]成あ[illegible]
[illegible]三月[illegible]
地[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

と其角の俳諧は法をぬけてせいてうさ程は
晋るといふんをものゝんの俳をこのかたるる
のせとおふ八百万はかりの俳の俳
をかゝるをしたとせのくに年めつゝしく
晋るを俳をかたるつといつてさるは角子
のいせといふ山崖のとを尚といふをうひまり
先師滅後をうけ俳るまゝ長く
あらしをこれこれ俳おのふをとゝい九重
乃塔のの月りてあるとゝ俳るをつゝるる
ことゝ口るるをきれ筋をたゝを晋るの門
なのの年を程をるゝそ掌中のをとるる

ちりぬあさうにたうを程とを程は一時
乃流りのゝみゝ月のない国のゝん
しあるの先師曰俳は八百万はかりの出れ
るの程いてふをはいちるの俳はをゝ
をこれゝの家言をるをつゝと俳を語る
いるかこゝ出るはおりしいうもるとをちをさ
めてを程より先をををのゝるのせゝ乃俳
はをゝは馬といふものゝあゝしを俳七十
二五ふを迄へうゝあゝをきを俳天下の俳
と名をとりゝ馬をるを月は百万の俳をは
りをとれはをのをんつををつを程を数

[illegible]

[illegible]

[illegible]

稲穂の波うつはつ世界
物うる事や庵の物うれ傳吉　呂風
夕風も動くかの秋
柳地しあつ　嵐雪
猫のまくらうるうるうる